



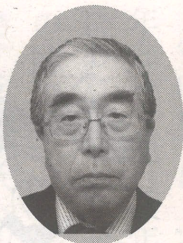
発行所
一般財団法人滋賀県遺族会
滋賀県大津市京町4丁目3-28
(滋賀県厚生会館1階)
電話 (077)522-7227
FAX (077)522-7233
発行責任者
滋賀県遺族会会長
松浦 友一

戦後80年
特集号

令和8年 新年ご挨拶

恒久平和の継続と平和の語り部の実施

滋賀県遺族会会長 松浦 友一



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、ご家族おそろいで健やかに新年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

大東亜戦争が終結して今年で81年。平和で豊かな暮らしに慣れてしまい、戦争の悲惨さや幾多の尊い命の犠牲の上にもたらされた平和の尊さが忘れ去られようとしています。この平和が続いていることはとても大きな喜びであり、この平和が永遠に続くことを願うばかりです。しかし、今なお世界各地で地域紛争が絶えず、多くの尊い命が無惨に奪われている現状があります。

昭和100年「記憶の継承」を普遍的課題へ「平和の語り部」の先頭に立つ決意を胸に

日本遺族会会長 水落 敏栄



ご遺族の皆様にはお元気で新しい年をお迎えることと拝察いたします。

日本遺族会会長として、年頭所感を表明いたします。

終戦80年の節目となった昨年は、「記憶の継承」が社会的課題として各方面で取り上げられ、遺族会の語り部も大きく注目を集め、全国で1500回余、聴講者は10万人を越えました。中でも、学校での講話は昨年度の2倍以上となる約500回、聴講者は4

遺族会では、再びあの忌まわしい戦争の惨禍を繰り返さない思いを持ち続け、英霊顕彰活動や平和の語り部活動、恒久平和実現運動、遺族の処

令和8年度 滋賀県遺族会 主要事業計画

時 期	事 業 名	場 所 等	時 期	事 業 名	場 所 等
4月5日	滋賀県護国神社春季例大祭	滋賀県護国神社	11月中旬	海外戦跡慰霊巡拝	グアム・サイパン
5月6日 ～8日	沖縄「近江の塔」平和祈念戦没者追悼式戦跡慰霊巡拝	沖縄県摩文の丘ほか	11月下旬	作文表彰式およびこどもシンポジウム	未定
5月16日	第249回理事会、第65回定時評議員会	滋賀県立武道館(予定)	12月5日	第251回理事会	未定
5月未定	青年部研修旅行	靖国神社ほか	12月5日	第2回合同会議 国会議員・県議会議員とのつどい	未定
7月20日 ～8月31日	「戦争と平和」作文募集	各小中学校	12月上旬	日本遺族会戦没者遺族大会	自由民主会館ほか
8月13日 ～15日	第50回みたままつり	滋賀県護国神社	12月31日 ～1月1日	除夜祭、元旦祭	滋賀県護国神社
8月15日	合同会議	滋賀県護国神社	1月9日	新年祈願祭	滋賀県護国神社
8月15日	政府主催全国戦没者追悼式参列	日本武道館	2月中旬	国内戦跡慰霊巡拝	未定
8月29日	平和祈念・県下戦没者追悼式(滋賀県主催)	滋賀ダイハツアリーナ	3月7日 ～8日	第53回靖国神社参拝旅行	靖国神社ほか
9月15日	大津陸軍墓地慰霊碑の彼岸法要 滋賀県戦没者英霊塔彼岸法要	大津陸軍墓地 膳所英霊塔	3月20日	第252回理事会	滋賀県立武道館(予定)
9月15日	第250回理事会	滋賀県立武道館(予定)	3月26日 ～28日	第26回次世代戦跡訪問研修事業	鹿児島県知覧ほか
未定	第3ブロック会議 (日本遺族会)	未定	毎月15日	滋賀県戦没者英霊塔月並法要 正副会長会議	膳所英霊塔 厚生会館
10月5日	滋賀県護国神社秋季例大祭	滋賀県護国神社	適時	戦争体験(語り部)活動	各市町
10月10日	滋賀県戦没者遺族大会	わたむきホール虹	適時	各市町要望活動	各市町
			適時	各市町遺族会会長会	未定
			適時	海外戦跡巡拝写真展	随所
			1月・6月	「遺族の友」発行	各市町

援護事業功労者表彰

令和7年度滋賀県戦没者遺族大会において、戦没者遺族に対する援護事業に貢献された方々が、知事表彰(1人)、滋賀県遺族会会長表彰(16人)を受賞されました。

令和7年度援護事業功労者 滋賀県知事表彰

澤本 長久 (88歳) 高島市

令和7年度援護事業功労者 日本遺族会会長表彰

吉島 利博 (85歳) 彦根市

岡本 勝一 (83歳) 守山市

令和7年度援護事業功労者 滋賀県遺族会会長表彰

寺嶋 良行 (73歳) 大津市

久保 博 (63歳) 草津市

吉川 高秋 (79歳) 甲賀市

木下 之雄 (81歳) 近江八幡市

藤田 功 (84歳) 近江八幡市

中村 健二 (81歳) 東近江市

徳田 周英 (81歳) 東近江市

山脇 勝太郎 (87歳) 東近江市

持田 長三郎 (81歳) 東近江市

伴 貴美栄 (75歳) 東近江市

森田 徳治 (75歳) 東近江市

小林 茂之 (84歳) 東近江市

大西 栄一郎 (82歳) 東近江市

久保田 正利 (58歳) 愛荘町

松橋 壽造 (80歳) 長浜市

畑野 博子 (81歳) 長浜市

厚生労働大臣表彰に田畑氏

多年にわたり援護事業に携わった功績をたたえる「令和7年度援護事業功労者厚生労働大臣表彰」に、次の滋賀県遺族会会員が受賞されました。

田畑 啓之助 (85歳) 甲賀市



戦後80年 特集

「作文シンポジウム」 開催



顧問 今堀治夫



戦後80年、今や戦争を知らない世代が9割を超えてきました。あの忌まわしい戦争の惨禍が風化されないよう次の世代に確実に伝えていく取り組みが重要となってきています。このため、滋賀県遺族会では、若年世代に戦争の恐ろしさと平和の大切さについて考える

機会を設けることを目的に、「私の考える戦争と平和」をテーマとして小中学生を対象に作文の募集を行いました。

結果、小学生2名、中学生71名、計73名から応募があり、去る11月15日、大津市において作文の表彰式と併せて「戦争と平和」を考えることもシンポジウムを開催しました。当日は滋賀県知事表彰1名、滋賀県遺族会会長賞7名（うち1名は知事賞と重複）について賞状が授与され、その後、表彰された7名の生徒による意見発表とシンポジウムを開催しました。その際、出席した生徒の

皆さんからは、
○戦争は大切な家族や恋人の命と生活、これから先の幸せを一瞬にして奪ってしまふ。
○特攻兵士として人生を奪われた身内の出征時のやり場のない暗い複雑な気持ちを今の自分自身に置き換えると平和はとても大事である。

○今日の平和な生活を決して当たり前と思わず多くの若い人たちに命の大切さと平和の有り難さを分かってほしい。
等の意見が寄せられました。

出席者全員が確固たる自分自身の思いや考えを持ってしっかりと発言していただきました。同時に、このことは次世代を担う子供達への何者にも勝る「平和学習」であることを痛感した次第です。そして来年度以降においても継続して取り組んでいくことが大変大事であると思っています。

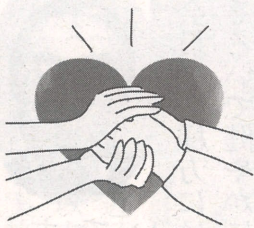
戦跡巡拝・遺骨収集写真展 大東亜戦争展 開催

日野町遺族会 安藤 宜保

滋賀県遺族会主催の戦後80年事業「滋賀県遺族会戦跡巡拝・遺骨収集写真展」が、8月21日から27日まで、日野町の「わたむきホール虹」ギャラリーで開催されました。

戦跡巡拝や遺骨収集の様子を伝える写真には、亡き方々への祈りと、平和を願う遺族の思いが込められており、来場者からは「活動の尊さを改めて感じた」「戦争の悲しみを忘れては

ならない」といった声が聞かれました。本展示を通じ、町民が平和への思いを新たに、県遺族会の事業への理解と関心を深める良い機会となりました。



中国湖南省との戦後80年 平和交流事業に参加して

高島市遺族会 澤本 長久

戦後80年の節目の年に行われた中国湖南省訪問事業。私は、昭和19年、83年前に先の大戦の激戦地で大敗し玉砕、多くの戦死者の一人となった父の戦地を訪れたく、高齢かつ初めての中国訪問で心配はありましたが、多くの参加者の皆さんに助けていただき、参加いたしました。

が、初日、中国湖南省長沙黄花国際空港に無事到着した時、空港の大きさ、施設

の立派さに驚きました。2日目に訪れた戦跡等が展示されている資料館で、



多くの日本兵の戦死者写真を見た時、この地で戦死した全員が父の顔に見えた気になり中国に来て良かった

多くの日本人兵の戦死者写真を見た時、この地で戦死した全員が父の顔に見えた気になり中国に来て良かった

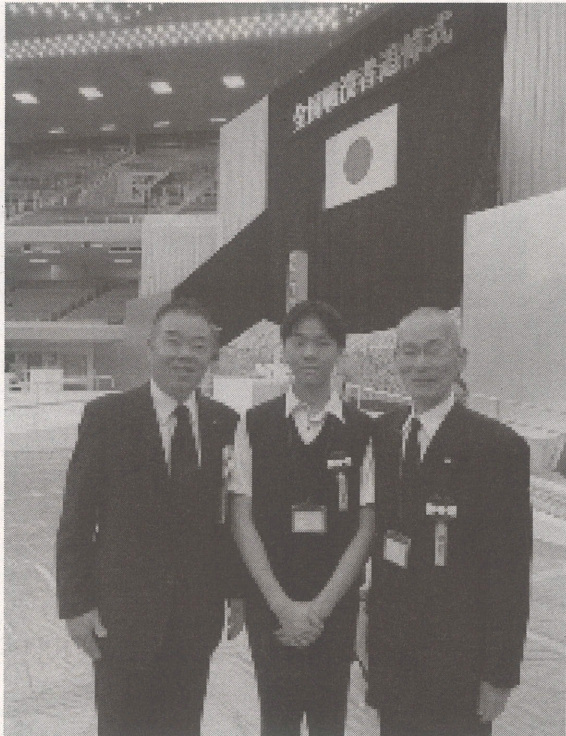
また、日野町役場の全面協力により、滋賀県平和祈念館から展示パネル等をお借りし、内容もいっそう充実しました。



わたむきホール虹のギャラリー

全国戦没者追悼式 三日月知事と黙とう

大津市堅田学区遺族会 田中正彦



左から三日月知事、山本航大(孫)と私

終戦から80年を迎えた8月15日、政府主催の全国戦没者追悼式が日本武道館で開催された。天皇、皇后両陛下や総理大臣、衆参両院議長、最高裁長官、各種団体代表者などと共に遺族は全国から約3400人(滋賀県から50人)が参列し、先の大戦で犠牲となられた全国約310万人(滋賀県約3万4000人)の人々を悼み、不戦と平和への誓いを新たにしました。

式典は、両陛下ご臨席から、国歌斉唱、総理大臣式辞に続いて、両陛下が正面標柱前にお立ちになり、正午の鐘を合図に黙とう。続いて、天皇陛下のおことばが述べられた。その後、衆参両院議長、最高裁長官に続き、遺族の代表が追悼の辞を述べ、両陛下のご退席となり、最後に参列者代表の皆さまが菊花を献じて閉式となった。

私は昭和62年度に一度参列したので、その後はあり得ないと思っていたところ、堅田学区遺族会桑野仁会長から「参列してくるよう」にとの推薦をいただき、今回参列申し込みとなった。

式典開始直前には、三日月大造滋賀県知事が各府県遺族献花者代表席までお運びいただき、激励の言葉を頂戴した。孫の父親が知事と高校同級生であると聞いていたので、急遽、孫にも声をかけをお願いしたところ、快く引き受けて激励の言葉をいただくという思いもよらないことが実現した。

終戦80年記念の全国戦没者追悼式への参列は、知事と一緒に式場で黙とうを捧げるといふ素晴らしい体験ができ、孫は報道各社から式典前後にインタビュー質問を受けた。その回答に大いに苦戦する姿を見ると、堂々とした献花補助のしぐさを見たとき、間違いなく、これからの遺族会活動を背負うという心構えに結び付いたと感じられ、生涯忘れ得ぬ内容となり、うれしく思っている。

戦没者追悼式を終えて

青年委員会 甲斐聡美

戦没者および戦災死没者等に対して、哀悼の誠をさげるとともに恒久平和を祈念する「令和7年平和祈念滋賀県戦没者追悼式」が、8月30日に米原市の滋賀県立文化産業交流会館において、関係各位のご参列のもと執り行われました。

今年度、私たちの国日本は、戦後80年を迎えました。私たち遺族にとつて、この80年の節目は、先の大戦で亡くなったご英霊

の方々への感謝の1年であり、多くの方々の思いがたくさん詰まった年であると思っています。遺族会をお支えくださった会員の皆さまは、ご家族がご英霊となられたその時から、深い悲しみとともに頑張ってきた。言葉では言い表すことのできないほどの心情であったことと思います。改めて感謝いたします。今回の追悼式では、中学



(令和7年8月31日付京都新聞朝刊)



①戦没者追悼式で黙祷をする参列者
②標柱の前に献花する参列者
(令和7年8月31日付京都新聞朝刊)



三日月知事と

「滋賀県戦没者遺族大会」

開催

総務企画委員会 谷川 利治

10月12日、今年度の滋賀県戦没者遺族大会が、草津市クレアホールにて開催されました。

来賓として三日月県知事を始め、盛川英治日本遺族会会長代理、県選出の衆参国會議員、県議會議員、長橋川津草津市長、ほか多数の来賓のご臨席を得て、また県下各地より500名の遺族会会員の参加を得て、盛大に開催できました。

開会のことば、国歌斉唱、戦没者に対しての黙



父の像に掲げられた提灯

いただきました。

次世代体験発表は、草津市立松原中学の入口菜和さん、守山市立守山中学の大藪一花さんから、鹿児島県知覧特攻平和会館等の体験発表がありました。

大会宣言、決議が読み上げられ、全員の拍手で採決されました。

アトラクションとして、最初に「平和の語り部」として既に活動されている、野村しづかず氏より経験談を話していただきました。

続いて、草津アートセンターの皆さまによる「なつかしの歌と舞踊」と銘打って、舞台いっぱいには懐かしい歌に合わせて舞踊をご披露い



戦後80年二つの遺品返還

相談役 國松 善次

先の大戦では、兵士の出征に際し、兵士には必ず男性の知人友人が「武運長久」を祈って署名した「日の丸」と、女性が白布に赤い糸で願いを結び付けた「千人針」を持たせて見送った。兵士は、それらを大事に身につけて戦い、戦死した。

そして、それらは敵軍に「戦利品」として故郷に持ち帰られたが、戦後80年、その兵士も老い、あるいは死んで、その遺品の保管に苦慮している。そんな時、アメリカ人と結婚した京都出身の女性が、ビルマで戦死した祖父の日章旗がカナ

ダから届き、家族や親戚が大感動した自分の体験から、遺品の返還運動を開始した。ただ、遺品には住所の記載がないため、大変苦労し、日本遺族会を通じての捜索が始まり、なんとか返還にこぎつけた。滋賀県でも東近江市など湖東地域の遺族に日章旗返還が続いた。

80年の今年になって初めて、遺族も多い県都大津市や湖北の長浜市



県戦没者遺族大会での戦争遺留品返還式

に遺品の返還が実現した。それも、今までにない家族から届いた「手紙」や「千人針」という遺品だった。

そして、この返還は、今年も県の戦没者追悼式典や県遺族大会の場で知事から遺族に手渡された。

「猛暑の中の一みたままつり」

祭祀(みたま)委員会 持田 長三郎

今年も猛暑の中「みたままつり」は、2000灯を超える献灯をいただき、厳かに開催することが出来ました。献灯いただきました皆さまや、短冊吊りなど作業にご協力いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。

今年も例年より少し早く3月に委員会を開催し献灯総数の決定など今年の概要

を確認し、6月から開催直前までは4回の委員会を開催し実施要領の決定、境内の清掃、提灯吊り場所の決定等を行いました。熱中症警戒アラートが発表されている酷暑の中、委員の皆さんには大変ご苦労をおかけしました。

8月13日の短冊吊りは早朝とはいえ30度を超える暑さの中の作業は大変だった

と思います。同日の夕刻は「みたままつり奉告祭」「点灯式」を斎行し、「みたままつり」が始まり、15日は「終戦記念式典」「県下戦没者慰霊祭」の式典のもと戦没者の安らかならんことを祈願し全日程を滞りなく終了しました。

16日の撤収作業も含め、まつり期間中天候に恵まれ、午前中の早い時間に終了することができました。酷暑の中ありがとうございました。

年々猛暑が深刻となる中

の「みたままつり」は、熱中症や会員の高齢化による作業中の危険度が増すなど継続が危惧されており、また献灯数も少なくなることにも心配であります。

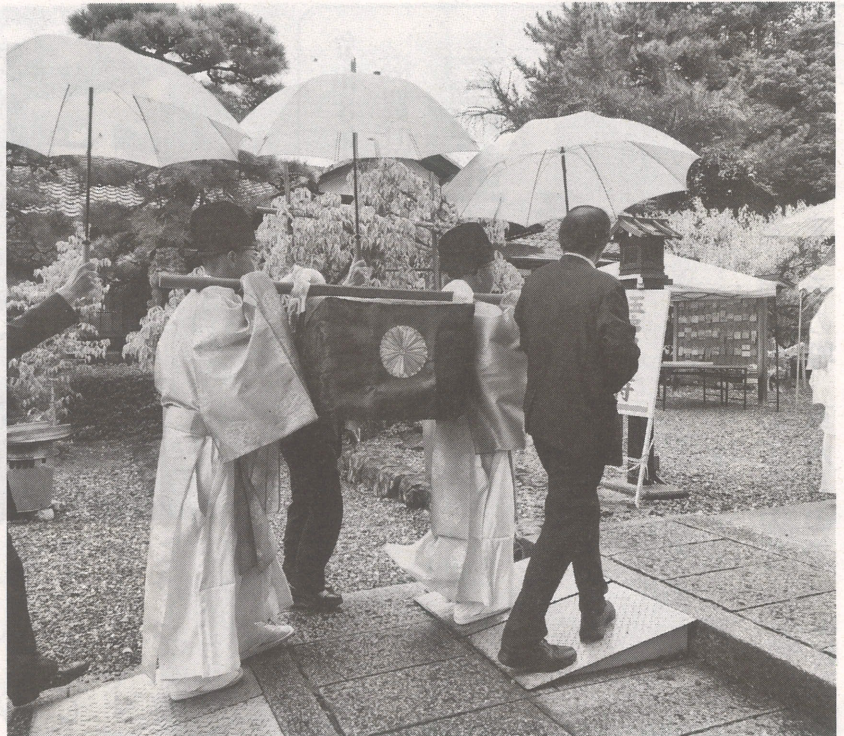
「遺族の友」240号の第36回(平成24年)みたままつりの報告でも既に今後のあり方について考えていく必要があると記載されており、夏風物詩として親しまれているこの「みたままつり」のあり方について、具体的に検討すべき時期に来ているのではない



参拝者の皆さん

戦後80年の秋季例大祭

青年委員会 貴多 正幸



天皇陛下幣帛料御唐櫃を御神前に奉納

戦後80年を迎え、あらためて祖父を大東亜戦争で亡くした遺族として、平和の尊さを深く感じています。3月には、滋賀県遺族会主催による「令和6年度次世代戦跡訪問研修」事業の引率者として鹿児島方面を訪れ、若くして旅立った隊員の遺書や資料に触れ、胸が締めつけられる思いでした。また、開聞岳の比島戦没者慰霊の碑において読経をさせていただき、参加者全員にお焼香をしてもらえたことは感慨深い思い出となりました。

そして、10月5日に斎行された滋賀県護国神社奉幣大祭並びに秋季例大祭においては、天皇陛下幣帛料御唐櫃奉興者の大任を

拝し、無事にご奉仕をさせていただきました。御遺族の皆様方が長きにわたり受け継いでこられた御英霊の尊崇の念を胸に、慎んで役目を務めさせていただいたと思っております。

戦争は遠い過去の出来事ではなく、私たち遺族にとって今なお続く記憶であり、家族の歴史そのものです。犠牲の上にある今の平和を決して当たり前と思うことなく、戦後80年を迎え、平和を願う心を新たに、語り継ぐことの大切さを改めて心に刻む年となりました。



自由民主党滋賀県国會議員・県議會議員とのつどいを受けて

(報告)

青年部 辻正人



12月6日、アヤハレークサイドホテルにおいて「令和7年度自由民主党滋賀県国會議員・県議會議員のつどい」が催された。

今年度も「特別弔慰金の支給対象範囲の拡大」等の継続した要望を国會議員へ、終戦80年を機に日本遺族会も推進している「戦争の風化防止対策の取り組み」語り

部事業」に対する支援について」等を全議員への要望とした。また、次年度には工事着工となる可能性が濃厚な「滋賀県遺族会館解体にかかる費用の支援について」も引き続きの要望とした。

要望書は、総務企画担当副会長の小生が読み上げた後、松浦会長と小生から自由民主党衆議院議員武村展英氏と滋賀県議會議員団を代表して川島隆二氏に手渡した。武村氏からは実現に向けお力添えをいただく旨の回答、川島氏からは県への要望は100%応えさせていただく旨の回答をいただき、和やかに懇親・意見交換会へ移行した。

四島(しま)を還せ

甲賀市遺族会 大治 正雄

10月29日から、北方領土の視察に「北方領土返還要求運動滋賀県民会議」の皆さんと参加させて頂きました。

残された重要課題であります。

ロシアが日本固有の領土を不法占拠してから、北方領土問題は、領土という国家の主権に関わる基本的な問題として、戦後我が国に

ロシアが日本固有の領土を不法占拠してから、北方領土問題は、領土という国家の主権に関わる基本的な問題として、戦後我が国に

題をあきらめたとおぼしめることにつながってしまっています。根室市はもとより、北海道・日本の全国民が行動し続けなければなりません。

戦後80年が経過した現在でも、ロシアの実行支配が四島に及んでいます。島の本土復帰に向けた外交交渉は国に任せて、返還運動は世論の結集・高揚を図るべく取り組まれています。

しかし、先にも述べましたが、ロシア・ウクライナの戦争状況が改善に向かわない限り、領土交渉は非常に厳しい状況にあります。ビザなし交流・墓参などの交流事業や経済活動など、どれをとっても停滞し発展の目途は全く見えません。

一度は雪解けの方向に傾きかけたように見えたこの交渉も、ロシアのウクライナ侵攻・コロナウイルス蔓延により、平和条約締結に向けた交渉が実施されていません。日本政府も可能な限りの対応を行っていたと思いますが、相手のあることで一筋縄での解決に繋

がるとは思われません。元島民の方々ははじめ、すべての国民が忸怩たる思いで日々を過ごしているのが現状です。

ウクライナ・ロシアの戦闘が一気に解決し、この四島問題に目を向けてくれる時まで、粘り強く国民運動として行い、時が来た時の日本政府の交渉に期待したいと思えます。

あの柔道着姿のプーチンさんのうれしそうな姿、秋田犬との写真姿が早く戻ってきてほしいものです。皆さん、その日がやってくるまで辛抱強く返還要求運動を続けようではありませんか。

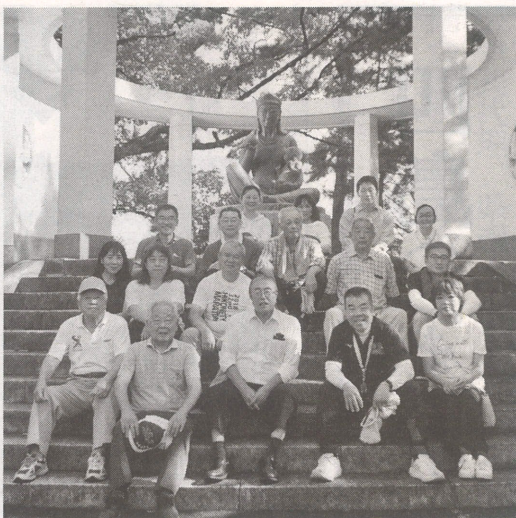
納沙布岬に建つ「返せ北方領土」碑の前で



大津市膳所公園内 英霊塔の清掃奉仕

8月18日早朝の大津市膳所公園内英霊塔周辺の清掃に、今年度も滋賀県知事三日月大造氏のご奉仕いただきました。

知事に参加いただくのは今回で5年目となり、県秘



書課、健康医療福祉部の職員の皆様にもご参加いただきました。今年、大東亜戦争が終結して80年を迎え、戦争の理不尽さ、悲しさを自ら体験した私達遺族は、誰もが高齡化し、戦後世代が9割を超え、後世に正しく語り継ぐことが難しくなってきたいます。悲慘な戦争の歴史が風化しつつある今日ですが、こうして知事自らが職員と共に遺族に寄り添っていた

だく姿には感慨深いものがあります。

滋賀県から出征され戦死された方は約3万3000人おられますが、そのうちご遺族のご意志により英霊塔の堂宇には約2万人の戒名・俗名を記したご位牌が、地域別に整然と祀られております。

毎月15日(8月は除く)には、各都市遺族会の会員の方達に英霊塔の清掃をお願いし、大津市仏教会の寺院の住職によってお経を唱え供養いただくなど、英霊塔の管理を行っています。(遺族会事務局)



洋上慰霊巡拝に 参加して

東近江市遺族会 藤澤喜八郎

昭和100年、終戦後80年の節目を迎え、日本遺族会が計画されました「戦没者遺児による慰霊友好親善事業80周年及び事業実施35周年記念洋上慰霊」に、6月1日〜11日まで参加しました。全国から216名の遺児の皆さんが参加され、滋賀県からは6名が参加しました。

この事業も今回が3回目です。最終回のことですが、私たちの乗船した船は「にっぽん丸」で、1990年就航、乗客定員449名の豪華客船であり、この船も35年間の就航を終えて2026年5月に引退するよう

で、日本遺族会も何かの御縁を頂いたのかと思われま

6月1日 17時ごろに神戸港を出

港し、6月6日まで休むことなく終日航海。

その間、東シナ海・台湾海峡・ルソン島西方

沖等の洋上慰霊祭を5回、戦争の概要・自分史の座談会・映画の

視聴があり、6日9

時ごろマニラ港に入港し、ここで1日停泊。7日から10日までは、シブヤン海峡・レイテ島東方・太平洋沖洋上・南薩諸島洋上等4回の慰霊祭と、水落会長の講演・自分史の作成と発表等が行われ、12日9時ごろに神戸港に入港し、11日間の航海を終えました。

この間、9回の洋上慰霊祭があり、各箇所ごとに船の後方甲板、また、雨などで甲板に出られないときは船内のホールで、お花・お菓子・果物、遺族の皆様からは故郷から持参されたお酒やおにぎり等がお供えされた立派な祭壇が設けられ、各慰霊祭ごとに遺族代表として数名の方が、その場所で行った英霊の追悼の誠を捧げ、自分の肉親に対して呼びかけをされ、同時にその他ご参列の皆様もご自分の英霊に対しての呼びかけをされました。

慰霊祭の後、各自が甲板に出て船の汽笛に合わせて菊の花を海に投花し、ご英霊のご冥福をお祈りしました。広大な海の底に眠られるご英霊もさぞお喜びいただけたのではないかと思います。

6日は9時30分から船内ホールにおいて、フィリピン特命全権大使の遠藤和也大使、フィリピン国の要人数名、毎回フィリピン慰霊巡拝のガイドを務めて頂いた中村さん他数名の皆さんにご列席頂き、全国戦没者追悼式が厳粛のもと盛大に挙行されました。現地フィリピンはもとより、各国で戦没されましたご英霊の皆様もお喜び頂けたものと思

います。また、午後からは船内に現地の子供達を招いて、それぞれにプレゼントを渡し、現地の施設等に車イス数台が寄贈され友好親善を行いました。目的は達成されたものの、もう少し時間があれば、さらに充実した交流が出来たのにと悔やまれます。

豪華船でたった11日間の旅で感じたことですが、戦争当時は、輸送船や民間の貨物船で何日もかかって遠くの外地まで行き、目的地に上陸するや、すぐに戦闘に従事された兵士の皆さんはどんな気持ちであつたろうか? こんな遠い外国まで行って、なぜ戦争をしなければならなかったのか? このようなことを思うと、如何に馬鹿な戦争をしたものか? 当時の戦争指導者の責任は大変重いものと思われま

す。

参列予定都市

「月並法要」

各都市参列計画

令和8年度
滋賀県戦没者英霊塔(膳所公園)
毎月15日午前10時から約30分、滋賀県戦没者英霊塔(膳所公園)において月並法要を行います。9時30分に集合いただき、周辺清掃のご協力をお願いいたします。その際、草刈りのできる道具、手袋等をご持参いただくと助かります。
なお、8月は諸行事と重なるため実施しません。

4月	草津市	10月	愛知郡
5月	甲賀市	11月	彦根市
6月	近江八幡市	12月	長浜市
7月	東近江市	1月	米原市
8月		2月	犬上郡
9月	蒲生郡	3月	大津市(堅田)

※予定月が都合の悪い場合は、取りやめるか、都市間で調整ください。
※堂内は約30人着席可能です。
※駐車スペースが狭いため、お車はなるべく乗り合わせをお願いいたします。
※参拝者の遅延に関わらず、定刻より法要を開始します。交通事情で到着が遅れる等の場合は、遺族会事務局(077-522-7227)までご連絡ください。



にっぽん丸船上にて

よいぞいなみ

平和への祈り

〜平和な世界を次世代に〜

守山市遺族会

岡本勝一

守山市では、本年戦後80年という節目の年を迎えるにあたり、より一層「戦争の悲惨さ」と「平和の尊さ」を次世代へ引き継げるよう、平和への取り組みを進めています。

その一環として、今年で

33回目となる「平和のよこび展」が、7月31日〜8月7日までの8日間、守山市と守山市遺族会の共催のもと、守山市民ホールで開催されました。

遺族会員による「戦争遺品展」「守山空襲展」「立田



遺族会による戦争関連の展示会場



平和祈念碑の除幕式

広島原爆投下時刻に合わせて「平和を誓うつどい」が守山市民運動公園「平和の広場」で、来賓として県議会（県・市）、遺族会、各自治会長、各種団体長、学校教職員等のご臨席を頂き、市内小・中学生代表者等合わせて総勢250余名参加のもと、全員で黙とうを捧

げました。戦後80年の節目の年に、かねてより守山市遺族会が宿願しておりました「市民と共に一同に会して戦没者の追悼と平和を祈願する場」が、市当局の高い判断のもと、この広場に建立して頂き、守山市長、守山市議会議員、守山市遺族会会長・平和祈念碑検討委員長・次世代代表による「除幕式」があり、広く市民にお披露目されました。それに続き、森中高史市長、渡邊邦男市議会議員、岡本勝一守山市遺族会会長、中井均平和祈念碑検討委員長の挨拶、そして立命館守山中学校3年本郷莉子さんによる力強い「平和の誓い」があり、各代表者による献鶴がありました。

今年も「平和の祈り像」の前に、守山市遺族会より竹灯籠による平和のメッセージとして「核兵器のない恒久平和を！語り継ぐ、残された傷跡」を並列しました。「核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現に向けて共に努力する」ことを誓い、閉会されました。「平和の祈り像」横では、今年も昨年より1個多い5個の実をつけた「長崎原爆2世柿の木」が見守っており、広場全体が平和を祈る場一色に！

この墓地は、明治以降、数々の戦争において戦病死された霊がお祀りされているということで、私の知る限りにおいて、その経緯などについて述べたいと思います。

この陸軍墓地は、正式には「大津陸軍墓地」と言い、元陸軍歩兵第九連隊に所属していた将兵で、西南



皇子山陸軍墓地彼岸法要

皇子山陸軍墓地 彼岸法要で感じたこと

副会長

角野彰夫

日に慰霊法要をされてきました。この碑の中には811名の名簿と遺品が収められています。無名戦士といいますが、811名の名簿があるということ矛盾します。このところが明らかではありません。

このことから、膳所公園にある滋賀県戦没者英霊塔に奉納されている戦没者名簿（3万2292柱）と重複しているのかどうか調査する必要性の話がありました。811名の名簿を維持管理されていた当時の奉賛会会長（建設会社関係者）が、その後の名簿の維持管理に困惑されており、この名簿を滋賀県戦没者英霊塔に保管・お預かりする形で、平成27年に覚え書きを締結しています。

いづれにしても、過去の様々な戦争によって散華された方々は、当時の国際的、政治的、社会的な状況により余儀なく戦地へ赴かれたのであり、我が身を取り巻く環境、つまり我が領土と同胞の命を守るための戦いであり、現在に生きる我々はこれからも慰霊と哀悼の誠を捧げなければなりません。次の世代にもこのことを伝えていかなければならないと改めて感じたところです。

鳴門市ドイツ館を訪ねる
 Ⅱ 東近江市遺族会研修旅行Ⅱ

東近江市遺族会

今岡多望



鳴門市ドイツ館前で

11月17日、東近江市遺族会は、コロナ禍以来久しぶりの研修旅行を実施した。

訪問先は、徳島県鳴門市の「鳴門市ドイツ館」で、会員40名が参加した。

午前8時出発、明石海峡大橋から大鳴門橋を渡り、鳴門市へ。まずは観光と、うずしお観潮船に乗り、大自然の脅威を体感。そして、昼食会場へ。高松道を経て、いよいよ目的地の「鳴門市ドイツ館」に午後2時前に到着。

かつて鳴門市坂東町に太

正6年（9年、第1次世界大戦時に、日本軍の捕虜となつたドイツ兵を収容するための「坂東俘虜収容所」が存在した。この収容所の安藤所長や管理スタッフは人道的にドイツ兵に接し、人権を尊重し、自主的な生活を認めた。そのため、ドイツ兵たちはそれぞれの才能を発揮し、中でも音楽活動は熱心で、ベートーベンの「交響曲第9番」をアジアで初めて演奏し、このことが現在日本人の「第9好み」にも影響があるのでは

と言われている。

地元民との交流も盛んで、極めて友好的であつたと言われている。戦後、これらの縁から、ドイツ・リューネブルク市と鳴門市との国際交流が始まり、収容所の近くに「ドイツ館」

が建設されたと芸芸員さんから丁寧な説明を受けた。人形による演奏も聴くことができた。また、この収容所での出来事を題材に、「バルトの楽園(がくえん)」として、旧八日市市出身の出目昌伸監督によって映画

平和祈念碑の除幕式(竜王町)

竜王町遺族会

樋田健次郎

竜王町には、東（旧苗村）と西（旧鏡山村）にそれぞれ、在郷軍人会が大正時代に建立した忠魂碑があり、その傍らに竜王町遺族会が昭和50年に町内の戦没

和4年に町で維持管理をお願いできないかと町長に要望するとともに、議会にも働きかけた結果、忠魂碑の維持管理を町で行うことはできないので、忠魂碑は解

者の芳名板を
竜王町役場内
に設置しまし
た。

その維持管
理は遺族会が
当番制で行っ
てきましたた

が、時の経過とともに遺族会の会員が減少し、また高齢化が進み、遺族会での維持管理が困難となってきた。そこで、今



新たに建立された平和祈念碑と町内戦没追悼碑

化されており、帰途はバス内でそのDVDを鑑賞し、更に有意義な晩秋の一日を終えることができた。



体撤去し、その代わりに

「平和祈念碑」を建立してはどうかとの提案をいただき、遺族会と町福祉課で碑の形状や大きさ、設置場所等、種々検討を重ねてきました。

忠魂碑の撤去とともに苦
名板を撤去すると、戦没者
を追悼する場所が無くなる
ことから、祈念碑の建立と
ともに戦没者の刻銘板の建

立を追加で要望したところ、令和7年度の予算に計上していただき、7月に町役場内で忠魂碑の解体と平和祈念碑の工事が始まり、立派な平和祈念碑と戦没者の名前を刻んだ町内戦没追悼碑が完成、11月15日に除幕式が行われました。

私たち遺族にとつて、この祈念碑は、戦争の記憶を風化させることなく、平和の尊さを後世に語り継ぐ大切な象徴であります。今後、この碑とともに、平和を守る意識を地域社会の中で育んでいきたいと思ひます。

滋賀県護國神社 英靈顯彰館だより

☆おとうさん。あなたに拘

12月 18人	10月 14人	11月 19人
------------	------------	------------

戦後80年の年を迎え、ご遺族の高齢化により、御霊のお写真を処分されるご家庭が増えてまいりました。「英霊顕彰館」には、御祭神を目に見える形で多

☆初めておじいさんの御靈に会いに参りました。たくさん英霊を見て、平和の尊さ、おじいさんたちの犠牲の上に築かれている幸せをかみしめました。今日も世界の各地で戦火が起きている。人が人を殺してはいけない。人が人を守り、平和を守っていきたいです。

(草津市孫)

☆日本兵の方々のおかげで、私は21年間も空襲の怖さ、生活の不便さ、ひどい空腹も経験せず、幸せに安ます。

全に暮らせています。「今日もしかしたら次の瞬間にもう自分はこの世にいないかもしれない」という恐怖を、戦場にいた人は感じていたのじゃないかなあと思っています。どれだけ怖かったです。辛かったですろうと思ひます。そういう恐怖や辛さをくぐり抜けてきてくれたからこそ、今の日本があると
思ひ生きていきます。

令和7年も猛暑日が続きました。やつと夏が終わり秋を迎えたと思ひきや、もう冬支度。自然の恐ろしさや年々目の当たりにするのですが、こういった氣候のせいや、林野火災が多く發生し、甚大な被害を受けた地域もあり、人ごととは思ひえずお氣の毒な氣持ちでいっぱいになりました。12月には青森県東方沖を震源

【来館者数】
 ※ノート 記帳者のみ
 (21歳女性)
 6月 9人
 7月 6人
 8月 48人
 9月 5人

とする地震が発生し、不安を抱えながら年末を過ごされました。

(広報委員会)